

CBC NEWS

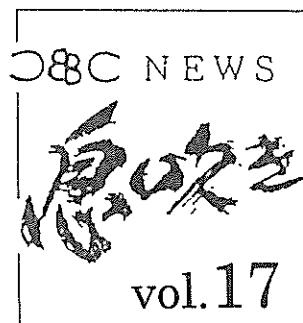


はじめに、主に心から感謝を捧げます。そして、主にあつて私たち学生のためにいつも祈り、献げ支えて下さっている全国諸教会の先生方、そして兄弟たちに心から感謝致します。

今年の五月二三日には新チャペルの献堂式も祝福のうちに終わり、校内の建築作業が完成致しました。そして今は、素晴らしいチャペルで毎日礼拝が捧げられ、

主にある兄弟たちへ

また素晴らしい寮で生活が出来るようになりました。はじめは、このような立派なチャペルで礼拝を捧げるのは感謝は勿論ですが、それと同時に恐れ多いというような感じがしました。今では毎日の礼拝の中で、感謝と喜びと共に、確かな主の臨在に圧倒されるような毎日です。確かに主は、神学校に聖霊を注ぎ、



溢れる恵みで覆いながら私たちを主の働き人としてふさわしくなすために、日々造り変えて下さっていると感じています。

更に学校内のカリキュラムも充実し、今までよりもい

ろいろな分野を学ぶことが出来るようになりました。さまざまな面で活躍しておられる先生方の現場での体験を聞きながら、数多くのことを学べることを感謝しています。それは、本当に素晴らしい祝福です。

そのような恵みの中で、ある学生が言っていた一つの話がとても心に残りました。ある時に学校見学にいらっしやった方が「私の献金がこの建物の壁ぐらいには、なっているのかしら。」と、おっしゃったそうです。ご本人は何気なく言った一言だったと思いますが、私たち学生にとっては心に深く響きました。このように、私たちが恵まれた環境で学び訓練出来る背後に、全国諸教会の篤い祈りと、尊い献げものがあることに感謝の思いが絶えません。そのような方々の上に主からの豊かな祝福があることを駒込山から祈りつつ...

静心

神学校時代に「三〇歳」を迎える学生が、意外に多い。彼らは晴れて「サ・テ・イズ」の仲間入りを果たし、他の誕生者よりも「特別なお祝い」を受ける。卒業する年におそらく、否、必然的にわたしも三〇歳になる。そこで神学生らしく「三〇歳」の中から「三〇歳」という年齢を探してみた。

祭司は三〇歳から仕事を始める(民四章)、ダビデが王に即位したのも三〇歳であった。預言者エゼキエルが神の召しを受けたのも三〇歳と考えられる。パプテスマのヨハネがその働きを始めたのも、また何よりも主イエスの公生涯も三〇歳からであったという。

祭司、王、預言者、いずれも皆、自分でありたくてもなれるというものではなかった。神の召しがなくはなれなかった。それぞれの時に神の召しを受け、やがて宣教地に出て行く私たち神学生、召しと選びとを確かにする一日一日を積み重ねていきたい。(S・H)

CBC NETWORK

・六月五日、ルーテル神学校校長である橋本昭夫師が訪問された。両学校の情報交換をし、また、当学校のコンピュータ設備を見学された。

・七月九日〜八月二四日まで、学生は全国諸教会において夏期実習を行った。

・七月一〇日〜一二日に教師研修会が神学校で持たれた。講習会では、堀川寛師が「デジタル社会と教育」、ダビデ・ハイムズ師が「批判的学問とペンテコステ教育の問題点」について語られた。祈禱会は上原和雄師が、早天祈禱会は菊地和博師と鈴木正和師がご奉仕された。二日には都内殉教史めぐりをした。

・八月三日に弓山喜代馬師の百歳記念誕生会が神学校の食堂で祝われた。

・九月五日に聖別式が持たれ、青木三徳師がご奉仕された。

・十月二日、学生一同で東村山市のハンセン病施設・全生園を訪問し、個別訪問後、集会を持った。

・十月二日、マレーシア・アッセンブリー元理事長、世界アッセンブリー評議会副理事長、カルバリーチャペル主任牧師プリンス・グネラトナム師がチャペルでご奉仕し、教会成長学緒論のクラスで講義をされた。

・十月一六日、ノースウェスト大学学長ダン・アーギュー師がチャペルでご奉仕された。

・十月二五日に、中央聖書教会と中央聖書神学校合同の海外宣教祈禱会が持たれ、式見幸枝宣教師がご奉仕された。

・和田喜久夫兄(第一回卒業生)が絵画の個展を開き、その内の三点を神学校に寄贈して下さいました。

感謝！

チャペルのピアノ献金が全額満たされました。また、ミシンの献品を募ったところ、多くの方がミシンを送って下さいました。皆様の尊い献金や献品、またお祈りに、学生一同、心から感謝しております。

一日体験入学募集

日時：11月23日(木・祝)
内容：チャペル、授業、昼食会
場所：〒170-0003 東京都豊島区駒込 3-15-20 中央聖書神学校
連絡先：03-3918-4925
献身を考えている方で、興味のある方は学校事務所へお申し込み下さい。

ホームページ
できました！

神学校にインターネットのホームページができました。時間割、教師紹介、校歌など盛り沢山です。その中でもCBCの学生が見ても面白いのが、今日の出来事と学生伝道集会ゴスペル・イン・ザ・ナイトのメッセージ、スキット(動画で見られます)です。一見、否、必見の価値あり、ぜひのぞいて下さい。アドレスは左記の通りです。
<http://www.cbc-j.ac.jp/>

編集
後記

二ヶ月間の夏期派遣が終わり、三年間の神学校生活も折り返し地点を迎えた。今までたずさわってきたCBCニュースを見返すと、この一年半が思い起こされる。期待と緊張感いっぱい入学してきた頃の自分、忙しい神学校生活になんとか慣れようとしていた頃の自分、そして神学校にいたことがまるで当然のように思える今の自分。あっという間にここまで来てしまった。そして、これからの一年半も矢のように過ぎていくのだろう。残された時間を大切に、有意義に過ごしていきたい。(N・U)

編集スタッフ

菅原 洋子 内田 信恵
日吉 成人 洲上 博子
竹中 範明 山岸よしあ
編集責任者 白石 禎男
事務局 中央聖書神学校
豊島区駒込三二一五二〇
FAXTEL 〇三三九一八四九二五
〇三三九一八四〇六四

夏期派遣の証し ～北から南から～

青森ジョイフルチャペルは、土地さえも鎌の形をしており、神の励ましを知る所でした。皆が各々神からの特別な証しを持ち、礼拝や特別集会にもよく新来者が来られました。また、牧師と信徒の交わりも温かく、時には、神の前で共に喜び踊る姿に魅力を感じました。

青森には「ねぶた祭り」があります。その由来が死者の霊を呼ぶというもので、教会は神の名のもとに心を一つにして青森の地からサタンの業を締め出す祈りへと導かれました。

また、東北キャンプでは、教会の子供達が、友達から断られる事も臆せず熱心に誘い、参加した友達の中には福音が語られる中、「献身」を決意する子もいたほど祝福されました。その子供達の中に「膠原病からの癒し」を受けていた子がおり、その証しを賛美にしてキャンプに持っていく

「青森の神の鎌」

四年 筒井 華子

事も出来ました。帰ってから、子供達は、積極的に教会に通い賛美テープを作ったり、作詞作曲もするようになりました。

更に、神は子供達に世の中の悪い考え・遊び・本・玩具等よりも神を大事にする訓練を開始されたようで、子供達自身から「悔い改めの為に祈って欲しい。」と申し出る程で、これらの神に対する懸命さと正直な応答にとっても励まされました。

周囲の大人のクリスチャン達も、子供達のため祈り続け、家庭を解放して、応援し支えていました。

私は派遣中、夜寝ている時に背中側がジワッと温かくなり疲れが消えた経験をした事からも、背後に牧師夫妻をはじめ教会の方々の祈りを感じていました。

帰る日には、みなさんが、私を励まして下さり、中には涙で送り出してくださる方もいました。

この働きに伴って下さった神と、教会の皆さんに感謝します。

「お便りを琉球の風に乘せて」

三年 日吉 成人

ハレルヤ！夏派遣では大変お世話になり、心から感謝します。

「看板のペンキは剥がれていないでしょうか？万が一剥がれていたとしても、愛する兄弟自身が看板となり主を証しされている毎日だと思えます。」今日は大漁だったでしょうか？網が破れるほどのキリストの具体的な恵みに、日々生かされていることと思えます。」二〇年目にしてやっと実がなったマンゴの味は格別でした。教勢報告には現われない地道で忠実な先生夫妻の働きも、時が満ちて美味しいマンゴのようになるのですね。」「主の幼子たちとの沢登り、そして滝を目にする達成感。喜んで教会に集う幼子達が、やがてあの滝で洗礼を受けるのでしょね。」何か巨大なものが降ってくるのではと驚いた米軍機の轟き。教会の空の向こうには、リバイバルの手ほどの雲もざわめいて

いました。「頭を染めたり、牧師と水をかけあったり、日付けが変わる家庭集会。形を取り繕うのではなく、また内にこもるでもなく、真実な交わりの麗さと海外宣教のビジョンに心を打たれました。」「大きな教会なのに、家族的な教会。早天にはアンナが、夜が明けるまで讃美し続けたヨシユアとカレブがいる。(十二月生まれはイエス様だけじゃないですよね！)」

私の先祖が育った懐かしさを感じる沖縄の地。近代的価値観に縛られず、雑多な文化要素が強い沖縄の地。だからこそ大きな可能性を感じ、どんな主の御業がなされるのか心が躍ります。派遣教会は第二の母教会です。キリストに出会ったからこそ皆さんと出会うことができました。そのキリストの御名によって今日も祈禱ノートをめくり、とりなしの手を挙げています。再会の日が楽しみです。その時はゴーヤジュースで乾杯し、豆腐チャンプルを頂きましょう。

それでは、シャローム！

Ministry Activities

Ministry Activities

伝道活動

にあふれて主に仕えよ！



トラクト作成班

私たちトラクト作成班は、その名の通り、毎週金曜日にCBC学生全員で行う伝道集

中央聖書神学校のある駒込山にも秋の気配を感じるこの頃。

今回は、神学生による奉仕活動の一つ、伝道部の中の班活動について御紹介します。

それは、自己を発見する場、友好と理解を深め、夢を取り戻す場でもあります。

会用のトラクトの作成・印刷をしています。去年から、集会名を「聖書と賛美の夕べ」から「Gospel In The Night」に新しくしたため、卒業された先輩方が作って下さったトラクトを使用できなくなったのは残念です。しかし名称変更をきっかけに、コンピューターを使って文字に変化をつけたり、学生たちの写真を載せたり、時には手書きにしたりと様々な創意工夫を凝らしています。路上で一人でも多くの方がトラクトに目を留め、教会に足を運んで下さる事を願って、班員、現在7名、アットホームな雰囲気の中で活動しています。

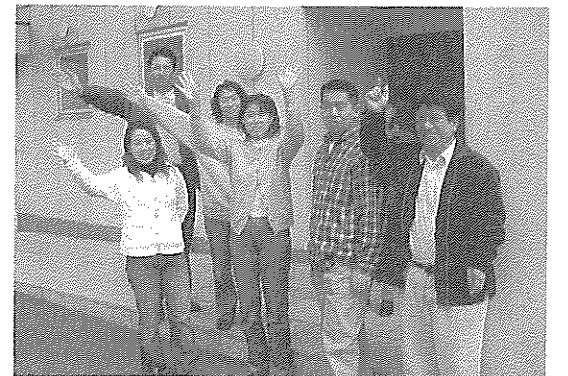
裏面には学生の救いの証しも載せています。もし、駒込の街で受け取られたら、是非！ご意見をお聞かせ下さい。

路傍伝道班

私たち路傍伝道班は今、毎週上野のホームレス伝道をしています。

そして、そこから毎週多くの方が学生伝道集会に来て下さり、救いの決心をして変えられていく姿を見ています。この伝道の働きは私たちが見たいものではあります。本心に主こそ自身が導き、道を開いて下さったと感じます。

最初に上野に行き始めたのは、約二年前でしたが、その時はホームレス伝道という事はまったく考えてなく、公園に来ていた一般の方たちを対象に、賛美し路傍伝道をしていました。けれども、そのような伝道が導きの中で自然にホームレス伝道に変わっていき、多くの方が導かれ救



われていくようになったのです。今はホームレスと言っても昔と違い、若い方や女性や、昨日まで社長だったという方までいます。そして、年々その数は増える一方です。主はそのような方たちを救おうと私たちを用いて下さっています。

新規個人伝道班

サマリヤの女、ザアカイ、長血の女…。私たちの主イエ

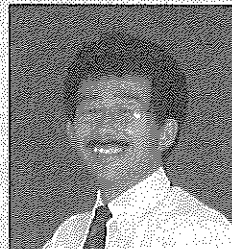
☆☆☆講師インタビュー Vol.9

鈴木 正和 先生

今回は、中央聖書神学校において、西洋史の講義をされている鈴木正和先生にお話を伺いました。先生は授業のために、毎週自宅からたくさんの本をかかえながら来てくださっています。時には、本の重さのために鞆のひもが切れたことがあったほど…。そんな熱心な先生は学生に慕われています。

新聞部：先生は、いつも熱心に授業をして下さるので、学生はとても興味を持って授業を受けさせていただけていますが、先生が講義をされる上で気をつけていることや考えておられることはありますか？

鈴木先生：不慣れなのでたくさん気をつけているのですが…。例えば、皆さんにとって分りやすく、興味が持てるようにとかです。ただ抽象的な話だけではなく、具体的に講義したいと思います。また皆さんの外に出ていくための準備となり、自分の中でチャレンジとなるようなことです。ただ講義を聞いてそれで終わりではなく、それを聞いて自分の中で考えを深めていくきっかけになればと思っています。



新聞部：なぜ、歴史を学ぼうと思われたのですか？

鈴木先生：歴史には昔から興味がありました。歴史的なものや移り変わっていくもの、社会の動きや人の動きに興味があり、それを勉強したいと思いました。クリスチャンになってからは、歴史の中でクリスチャンたちが社会とどう関わってきたのか、どのように証しをしてきたのかということに興味があります。それによって自分はどう生きるべきか、これからどう生きていこうかと考えさせられますし、先達の生き方が励みにもなります。

新聞部：学生の時、よく伝道されていたというお話を聞きましたが、その時のエピソードが何かあったら教えて下さい。

鈴木先生：狭山教会時代は、いろいろしました。天幕集会で、スリーコードしか弾けないのにギターで伴奏したり…。音楽は苦手で、それもギターも習いたてで、集会の台間にチューニングをしていたら弦が切れて…。仁司延行先生に「あまりギターが弾けないのにチューニングなんかするな。」と怒られましたね。(笑) あとは新宿で喫茶伝道の奉仕をしていたのですが、司会をすることや10m～20m位一緒に歩きながらトラクトを配ることなどを学びました。ある時期からピラ配りが厳しくなり、それも刑事さんに配ってしまい、2回警察まで行きました。それからは配ることはなかったです(笑)

新聞部：最後CBCの学生に何か一言お願いします。

鈴木先生：今は、恵まれた学びの時だと思います。充実して送っていただきたいと思います。将来、勉強しようとしても、なかなか学べませんし、学べる時に学んでほしいです。あとは寮生活の中での交わりを大切にしていきたいと思っています。羨ましいですね。

新聞部：はい。ありがとうございました。

Ministry Activities

Ministry Activities

私たちの感謝

スの公生涯において、その働きの大部分を占めたもの：それは個人伝道でした。失われた一匹の羊を求めて主イエスは伝道されました。新規個人伝道班では、そのような主イエスに倣って一人の魂を愛し伝道していこうと活動しています。

活動の中心は、各自がそれぞれに重荷を持って行っている「個人伝道」を中心として、実践から得られる問題点を共に考える「分かち合い」と、個人伝道からその後のフォローを含めたテキストを用いて

の「学び」の三本柱で行っています。個人伝道はあくまで個人が魂に関わっていきますが、共に活動する仲間同士の分かち合いによって感謝の時に慰め合い、とても励まされています。その中で少しづつ刈り取る実も見させていただいていることを神様に感謝しています。

トラクト配布班

トラクト配布班は、班員の三宅真嗣、内田信恵、山岸よしあ、有志の日吉成人の四名で活動しています。それぞれ担当地区を決め、学校周辺の家々に「めぐみのおとずれ」や集会案内を配っています。毎週一〇〇部ずつ、おのおの時間を見つけて配っています

が、すぐに実を結ぶ働きではありません。しかし、班員全員が「トラクトを通して、イエス様を信じる人が起こされるように」と祈りながら配っています。以前トラクトを見て集会に来たという方がいました。その時は班員はじめ学生一同が喜びに満たされました。地道な働きですが、主は確実にトラクトを用いて下さっています。

病院伝道班

「あなたがたによく言っておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」(マタイ二五章四〇節)の御言葉を掲

げ、病院等にて、体や心に傷を負っている方々の所に訪問し、神様の救いへと導くことを目的として活動しています。学生伝道集会の案内をするために、月に二回程度、近くの病院を訪ねて聖書研究会を行うというのが主な活動内容です。また、毎週金曜日授業後に祈禱会を行っています。病院伝道班独自の働きとして、東京都板橋区にある誠志会病院に年二回訪問して、伝道集会及び病室伝道を行っています。

イエス・キリストのように、魂のホームグラウンドまで訪ねて行き、福音を伝えていきたいと思っています。

